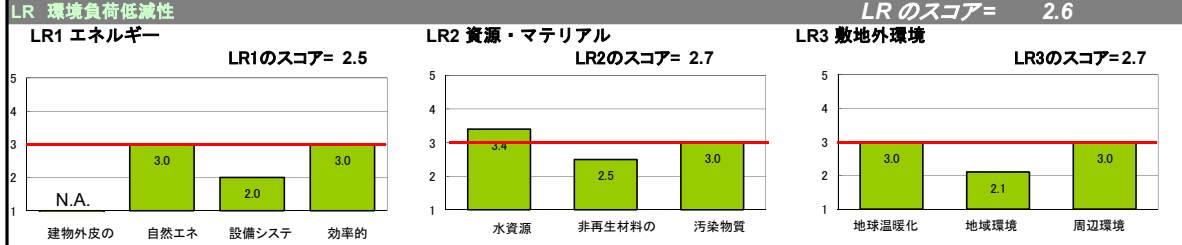
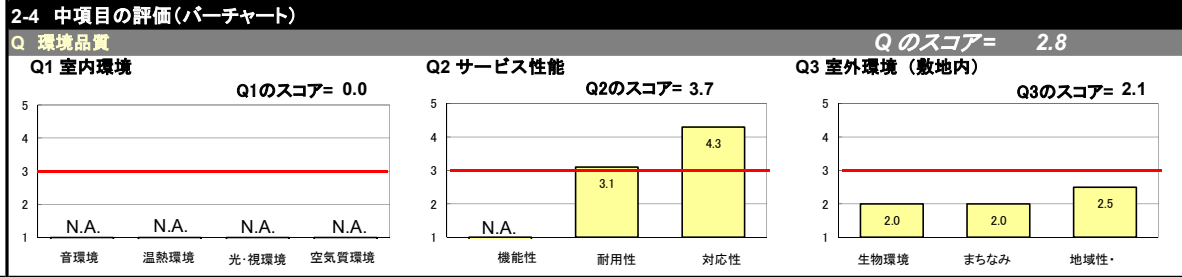
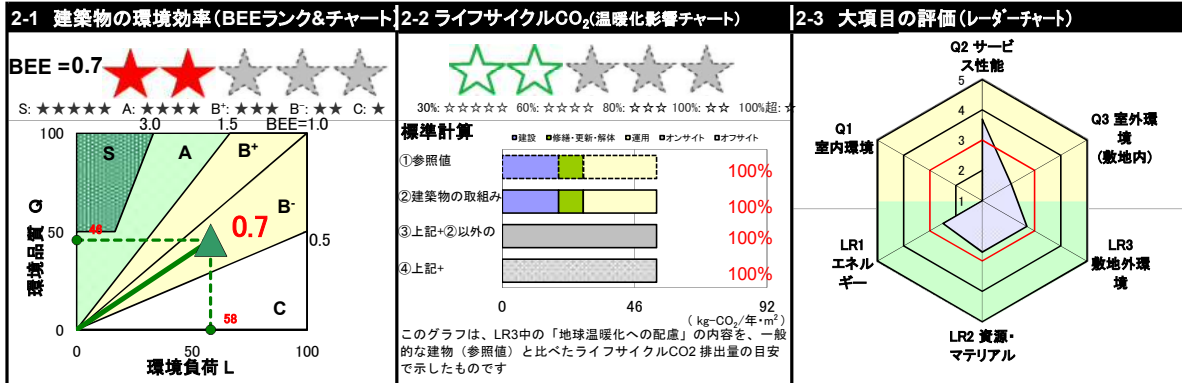


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新東工業大治事業所	階数	地上4階
建設地	愛知県海部郡大治町大字西條字附	構造	S造
用途地域	工業地域、市街化区域	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2019年1月25日
敷地面積	11,473 m ²	作成者	中山 英典
建築面積	6,856 m ²	確認日	2019年1月31日
延床面積	10,310 m ²	確認者	番 睦宏



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">60.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				4.3	0.48			-	4.3
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			各階の階高を4.1m以上で計画	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1以下	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			工場エリアに5,000N/㎡、20,000N/㎡を採用	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.1	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性			躯体を貫通する場合はスリーブを設置する。	4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									2.6
LR1 エネルギー				-	0.40			-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				2.0	-			-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28			-	3.0
3 設備システムの高効率化				2.0	0.43			-	2.0
4 効率的運用				3.0	0.29			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	-
集合住宅の評価				-	-			-	-
4.1 モニタリング				-	-			-	-
4.2 運用管理体制				-	-			-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	2.7
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			主要器具を節水器具としている。	4.0	0.40			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	-
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63			-	2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	-
1 消火剤				-	-			-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	-
3 冷媒				3.0	0.50			-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	2.7
1 地球温暖化への配慮		①		3.0	0.33			-	3.0
2 地域環境への配慮				2.1	0.33			-	2.1
2.1 大気汚染防止			排出濃度 57.5% ≤ 90%	4.0	0.25			-	-
2.2 温暖環境悪化の改善				1.0	0.50			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	-
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	-
2 振動		独自		-	-			-	-
3 悪臭				-	-			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-
2 砂塵の抑制				-	-			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

重点項目スコアシート

新東工業大治事業所

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:60%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	施主要望である、「クリーンで精密な工場環境をつくり、高品質な製品を提供する工場」を実現させるため、様々な工夫を行なった。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	将来のレイアウト変更や設備システムの更新性を考慮し、階高等のゆとりを確保した。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺住民等に配慮し外構計画及び緑地を計画した。
LR1 エネルギー	設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用し、水資源の保護に努めた。また仕上げ材に有害物質を含まない材料を使用し、環境負荷削減を図った。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2の排出量を削減し、地球温暖化の防止を図った。また、Nox、Sox等の排出をさせないことで、大気汚染の防止に努めた。
その他	災害時等の際、周辺住民の一時避難場所として使用できるよう、工場内の一部を愛知県人にやさしいまちづくり条例に適合する仕様とした。